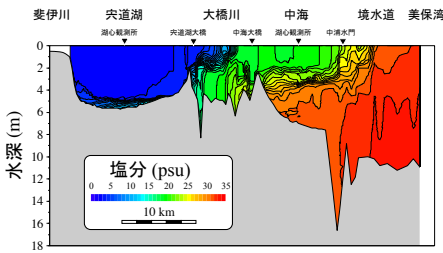


瀬戸浩二・香月興太・仲村康秀・安藤卓人・齋藤文紀（島根大学エスチュアリー研究センター）  
辻本 彰（島根大・教育）  
入月俊明（島根大・総合理工）

**目的**

斐伊川東流イベントの年代については1640年頃と  
言うのが定説になりつつあるが、実は確度が低く、  
十分に立証されていると言えない。  
一方でそれを否定する根拠もいくつかの歴史的な  
記録があるものの確証とするには乏しいと言わざる  
を得ない。

それらを明らかにするために宍道湖で新たなコア  
(20SJ-1C コア) を得た。  
ここでは、20SJ-1C コアを分析することによって  
得られた近年の堆積環境の変遷、斐伊川東流イベ  
ントの年代と堆積システムの変化について検討した結  
果を報告する。



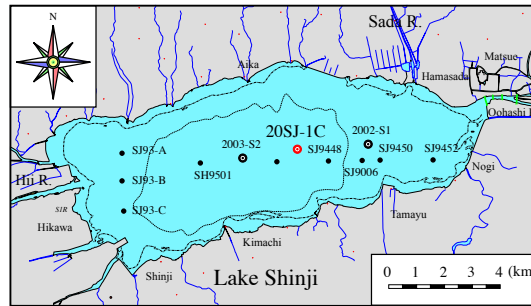
**宍道湖**：湖沼面積 79.1km<sup>2</sup> の日本で7番目に  
大きい湖沼。海跡湖の中では、3番目に大きい。  
水深は6m 程度。  
塩分は、海水の 1/10 程度の汽水で、富栄養  
化が進んでいる。

**斐伊川東流イベント**

斐伊川が西の大社湾側から東の宍道湖側  
に流路変更をしたイベント。

1635 年及び 1639 年に起こった出雲大洪  
水によって斐伊川が東に流路を変え、それ  
が古文書に記録されている（高安, 2001）。

その結果、閉鎖的な汽水環境から淡水環  
境に移り変わったことが堆積物に記録され  
ている。

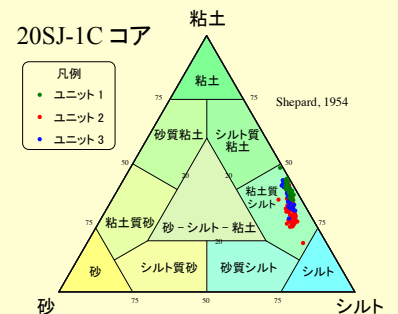
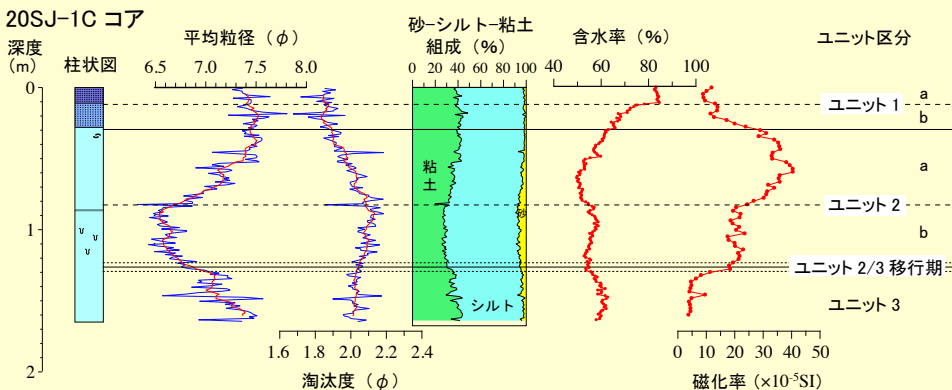
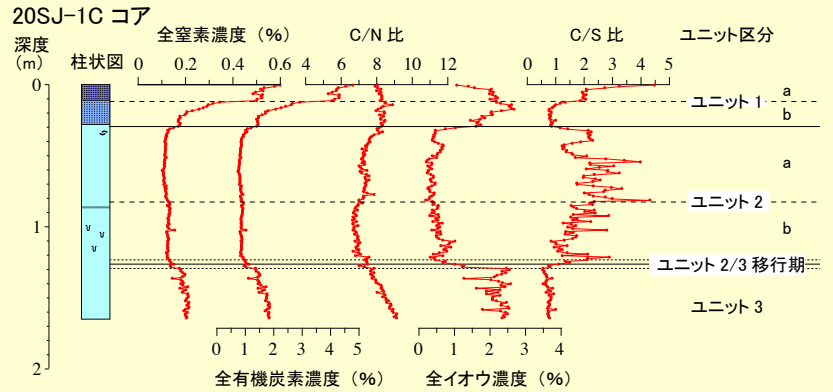
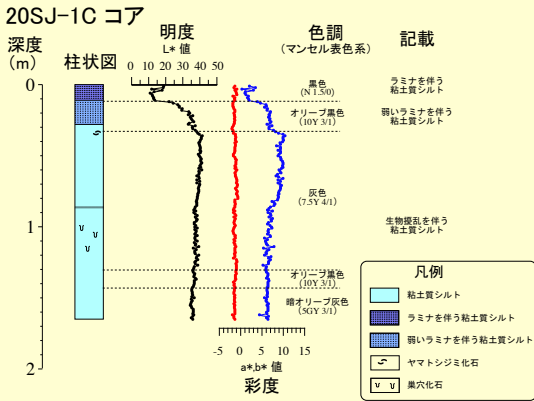


コア採取の位置

**20SJ-1C コア**

採泥日：2020. 7. 9  
水深：5. 75cm 深度：-5. 10cm (TP)  
コア長：A, 165cm, B, 148cm  
コアリング法：押し込み式ピストンコアラー

**分析結果**



分析結果から3つのユニットに区分し、さらにサブユニットに細分した。  
ユニット 2/3 移行期（深度 122~130cm）が斐伊川東流イベントに相当する。